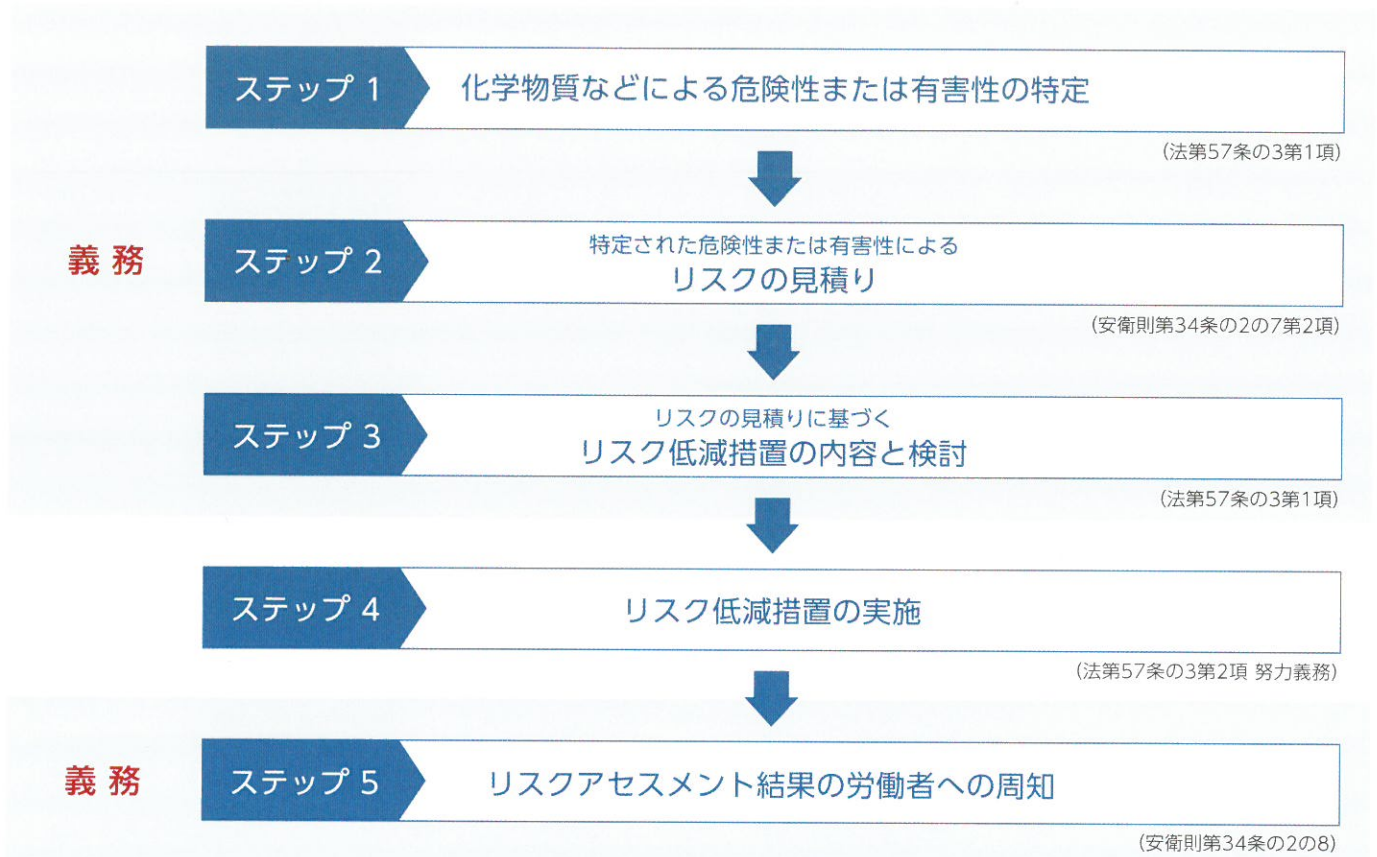


3 リスクアセスメントの流れ(モデル)

リスクアセスメントは以下のような手順を進めます。



4 まずは最新のSDSを入手しましょう

化学物質などによる危険性または有害性を特定する為にSDS安全データシートを使用します。

- 適用法令が確認できます。
- 取り扱う労働者への危険性の周知ができます。
- 特化則、有機則の規制対象外物質の有害性を確認することができます。

※労働者に健康障害を生ずるおそれのあるものを譲渡、提供する場合、安全データシート(SDS)の交付等による、必要事項の通知が義務付けられています。

5 作業者の健康リスクを確認する

コントロール・バンディングによるリスクアセスメントの実施

「職場の安全サイト 化学物質リスクアセスメント」

http://anzeninfo.mhlw.go.jp/ras/user/anzen/kag/ras_start.html

いくつかあるリスクアセスメント手法のなかで、コントロール・バンディングは、SDSさえあれば、化学物質に詳しくなくても、簡単にリスクアセスメントを実施できます。厚生労働省のホームページから無料で利用できます。

※コントロール・バンディングは最大リスクを見積もる方法のため、換気や保護具の汚れは考慮されていません。
リスクアセスメントは各職場の特徴を確認して、修正した内容で実施することをお勧めします。

⇒コントロール・バンディングの実施方法は次ページ